

目次

ビフィズス菌の街 20230630	1
-----------------------------	---

ビフィズス菌の街 20230630

みなさんは、どちらだと思いますか？

宇宙に意識がない場合、機械論に進む。

宇宙に意識がある場合、生气説となり、機械論と対立する。

つまり、宇宙は物質的な空間なのか、生物の体内なのか。

わたし自身は、子どものころは物質的な空間に生きていると考えていました。

なぜなら、神さまを髭のおじいさんの姿で想像していたから。

しかし占いを習うようになり、スピリチュアル系の本も読むうちに、宇宙生命体こそが神ではないかと考えるようになりました。

仮に名前を「グリーンさま」とつけます。

グリーンさまは、ただの生き物なので、何もできない。

ただ生きてるだけ。

万能ではない。

多神教も一神教も、神と人は別の存在。

そして神は超常の力を持つ。

でもわたしが想像するグリーンさまは違う。ただ生きているだけ。

人が自分の体内の出来事を知らないように、グリーンさまも体内の宇宙空間で何が起きているのか知らない。

だが、逆はあり得る。

人が神を感じ、意識して呼び掛けることは起こる。

たとえば、人の体内のビフィズス菌が、自身のために活動する。
人も、神のためではなく、人のために活動する。
その活動が、宿主にとってよいか、悪いか、知らない。

した方がいいのか？
しない方がよいのか？
グリーンさまより外はない。
神を診る医者はいない。
ならば、体内の人が神を理解し、医者として振る舞うことは可能なのか？

実際、腸内細菌は人の行動に影響を与えてるらしいですね！

たとえるなら、ビフィズス菌が体内に街を作り、学校で学び、電車や道路などの物流網を作り出すようなもの。
うっかり掘りすぎて、人の内蔵に穴をあけるかもしれない。

ここまで読んで、うっすら感じるかもしれない。
もし、宇宙生命体説を信じるなら、神と人、どちらのために生きるか、問われることを。

たとえば、癌。
「神の患部を引き受け死ぬていく」と考えれば、英雄的な行為となる。

つまり、機械論として歯車の一部と考えると意味はないが、生物としてより大きな存在である神を生かすために人が存在すると考えた場合、「人が生きることは神のため」という意味を持つ。

人を見守る強い神から、人を見守る弱い神に信仰が変わった時、人は何を考え、どう生きるか。
それが知りたくてエッセイを書いていると思う。

グリーンさまとグリーン教徒

著 ELYE

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
